Course number	U-LAS06 10024 OJ43　U-LAS06 10024 OJ42　U-LAS06 10024 OJ41 U-LAS06 10024 OJ17

Course title (and course title in English)	統合型複合科目（人社群j）：国際政治経済学 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Humanities and Social Sciences j) : International Political Economy	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Economics Professor,SAKADE TAKESHI Institute of Economic Research Program-Specific Professor,HATTORI TAKASHI Graduate School of Advanced Integrated Studies in Human Survivability Professor,SEKIYAMA TAKASHI Center for Southeast Asian Studies Professor,MURAKAMI YUUSUKE

Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	Jurisprudence, Politics and Economics(Foundations)

Language of instruction	Japanese	Old group	Group A	Number of credits	4

Number of weekly time blocks	2	Class style	Lecture + Seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2026・First semester

Days and periods	Tue.1・5	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

［国際政治経済学(International Political Economy)・国際関係論(International Relations)］現代の国際社会は、国際政治と国際経済の交錯した複雑な情勢の中で、政策上の諸課題の新たな解決策を求めています。本演習は、国際情勢のホットボタン・イシューを種々のソースからリアルタイムに情勢収集し、国際政治経済学の諸アプローチから分析し、今後の日本の針路を検討する。

本科目は以下の３点を目標・内容としています。
① ホットな国際情勢（アメリカ政治経済・ウクライナ・中東・台湾尖閣等）を、国際関係理論と結び付けて勉強する。
② ゼミ生内・ゼミ生―教員でよく議論・討論する。
いろんな視点を学ぶことができます。
③ ゼロから国際政治経済を学べる。

○統合型複合科目分類【文・文】
主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題についても文系分野の要素が強いと考えられるもの

[Course objectives]

現代の国際・国内の政治経済情勢について見識をもてるようになる。
卒業後、国際的に活躍できる人材となる。

[Course schedule and contents)]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません）

◆講義（火1、共北36）
PART I 国際政治学
（１）Chapter 1「新しい」アメリカ帝国主義と「主権国家体系」①「トランプは新しくも異常でもない。アメリカ帝国主義の平常運転」
トピック：①イラン・ハメネイ師斬首計画の原型としてのZRRifle（CIA・マフィアのキューバ・カストロ議長暗殺計画）②アメリカはなぜイスラエルを支持するのか？（以下Chapterは教科書『京都

Continue to 統合型複合科目（人社群j）：国際政治経済学(2)↓↓↓

大学国際政治経済学2026』より）
（２）Chapter 2　古典的リアリズム
トピック：ウクライナ 戦争「国家の主権はどこまで守られるべきか？
（３）Chapter 3　古典的リベラリズム
トピック：ウクライナ戦争と国連安保理の機能不全～「国連は無力なのか？」――集団安全保障 vs. 権力政治　国家の主権と自己利益が優先されるなら、国際機関の役割とは何なのか？
（３）Chapter 4 アイデンティティ・パースペクティブ
トピック：GW　イスラエル・ガザ紛争―正義はどこにあるか？
PART II 国際政治経済史
（５）Chapter 5 パクス・ブリタニカ(1880s-1939)
トピック：パクス・ブリタニカは国際法の基礎を作ったのか？
（６）Chapter 6 パクス・アメリカーナI(1945-1971年)
トピック：キューバ核危機(1962年)と意志決定プロセス
（７）Chapter 7 パクス・アメリカーナII(1971-91年)
トピック：金ドル交換停止（1971年）にいたるドル危機
（８）Chapter 8 ポスト冷戦期(1991-2014年)
トピック：冷戦終結後のNATO東方拡大がどのようにウクライナ戦争の原因の一つになったか？
PART III　国際経済学
（９）Chapter 9 国際貿易（比較優位の原理、ヘクシャー＝オーリンモデル、標準貿易モデル、輸入関税）
トピック：トランプ相互関税
（１０）Chapter 10 為替レート（ビッグマック指数、購買力平価(PPP)、）
トピック：アジア通貨危機（1997年）と為替レート
（１１）Chapter 11 金利（アセット・アプローチ、オーバーシューティング（ドーンブッシュ・モデル）
トピック：ラテンアメリカ累積債務危機(1980年代)と金利
（１２）Chapter 12 物価水準（インフレ・デフレ―フィッシャー方程式、マンデル＝フレミング・モデル）
トピック：なぜ2022年以降、日本は『円安・インフレ・国債安（金利上昇）』というトリプル安に近い状況に直面したのか？
PART IV　国際政治経済学
（１３）Chapter 13　ネオリアリズム
トピック：台湾有事においてアメリカが介入するかどうかを、アメリカのオフショアバランシング戦略から分析しなさい。
（１４）Chapter 14　ネオリベラリズム
トピック：気候変動問題をネオリベラリズムの視点から分析しなさい
PART V 国際政治経済史２
（１５：フィードバック）Chapter 15　米中覇権衝突期(2014-present)
トピック：半導体サプライチェーンをめぐる経済安全保障を米中覇権衝突の視点から分析しなさい

◆少人数演習
上限15人で3つの班に分かれ、テーマをローテートしてディスカッションを行う（いずれの班に配属されてもすべてのテーマのディスカッションを行う）

A班　火5・共北12
第1クール（担当：関山）
（１）ガイダンス

Continue to 統合型複合科目（人社群）：国際政治経済学(3)↓↓↓

（２）ウクライナ戦争１（講義関係章：Chapter 2）ロシアによるウクライナ侵攻は、国連憲章の核となる「国家の主権平等」と「武力行使の禁止」という国際法の基本原則を明確に侵害した。この事態を機に、主権が本当に絶対的なものなのか、あるいは国際秩序維持のためにどこまで制約されるべきなのかを議論する。
（３）日本の「失われた30年」（講義関係章：Chapter 12）なぜ日本経済は長期にわたって停滞を続けることになったのか。他の先進国（特に一人あたりGDP世界トップ10の国々）との国際比較で議論する。
（４）気候変動問題１（講義関係章：Chapter 14）国際制度は国家間の協力を促すのか。気候変動対策や生物多様性保護などの国際環境問題を題材に、制度が国際協力を促進しうるか考える。
（５）米中覇権衝突（講義関係章：Chapter 15）経済的に互いを必要とするはずの米中が、なぜ対立するのか。近年の米中関係を題材に、新旧の大国が対立するメカニズムを考える。

第2クール（担当：服部）
（６）台湾危機（講義関係章：Chapter 13）台湾海峡危機や半導体の地政学的課題を踏まえ、エネルギー安全保障やサプライチェーン強靭化、危機管理など、日本の安全保障戦略と経済対応を多角的に検討・議論する。
（７）国際機関（講義関係章：Chapter 6,7,8）戦後の国際経済秩序の下、様々な国際機関が設立されてきたが、近年、脱退や拠出金問題などが生じている。はたして国際機関は有効なのか。国際機関の役割について議論する。
（８）交渉分析（講義関係章：Chapter 9）国家間の紛争に関し、交渉による解決が図られてきた。他方、国力や立場の違いが交渉の過程や結果を左右する。トランプ関税を例に、国際交渉をどう捉えるべきかを議論する。
（９）気候変動問題２（講義関係章：Chapter 4）気候変動問題への対処が規範として世界に浸透する一方、米国のパリ協定脱退など規範を逸脱するかの行動もみられる。気候変動問題を例に、規範の有効性について議論する。
（１０）中間総括

第3クール（担当：村上）
（１１）トランプ関税（講義関係章：Chapter 9）トランプ関税は相手国・米国・国際経済に、国内産業保護の利益とコスト上昇や貿易摩擦の不利益をどう及ぼすか、その功罪を多角的に議論する。
（１２）国家主権／主権国家（講義関係章：Chapter 1・2）GAFAをはじめとする前世紀終盤からのグローバル化、ならびにそれに反応する形で今世紀に入ってみられるようになった「ローカル化」にも着目しつつ、主権国家／国家主権のあり方や意義、今後について議論する。
（１３）ウクライナ戦争２（講義関係章：Chapter 2・3）ウクライナ戦争について、グローバルサウスに含まれる国々はどのような反応や姿勢を示してきたのか。ウクライナ戦争に対する各国の姿勢や立場から、今日の大国・強国とグローバルサウスの関係を議論する。
（１４）1980年代～90年代の金融危機（講義関係章：Chapter 10,11,14）前世紀終わりの金融危機は、英国・米国で始まった、市場原理を徹底させる新自由主義（ネオリベラリズム）が世界各地に拡大・浸透する契機となった。その現在への影響について検討する。
（１５）フィードバック

B班　火5・教育院棟演習室21
第1クール（担当：村上）
（１）ガイダンス
（２）トランプ関税（講義関係章：Chapter 9）トランプ関税は相手国・米国・国際経済に、国内産業保護の利益とコスト上昇や貿易摩擦の不利益をどう及ぼすか、その功罪を多角的に議論する。
（３）国家主権／主権国家（講義関係章：Chapter 1・2）GAFAをはじめとする前世紀終盤からのグ

Continue to 統合型複合科目（人社群）：国際政治経済学(4)↓↓↓

ローバル化、ならびにそれに反応する形で今世紀に入ってみられるようになった「ローカル化」にも着目しつつ、主権国家／国家主権のあり方や意義、今後について議論する。
（４）ウクライナ戦争２（講義関係章：Chapter 2・3）ウクライナ戦争について、グローバルサウスに含まれる国々はどのような反応や姿勢を示してきたのか。ウクライナ戦争に対する各国の姿勢や立場から、今日の大国・強国とグローバルサウスの関係を議論する。
（５）1980年代～90年代の金融危機（講義関係章：Chapter 10,11,14）前世紀終わりの金融危機は、英国・米国で始まった、市場原理を徹底させる新自由主義（ネオリベラリズム）が世界各地に拡大・浸透する契機となった。その現在への影響について検討する。

第2クール（担当：関山）
（６）ウクライナ戦争１（講義関係章：Chapter 2）ロシアによるウクライナ侵攻は、国連憲章の核となる「国家の主権平等」と「武力行使の禁止」という国際法の基本原則を明確に侵害した。この事態を機に、主権が本当に絶対的なものなのか、あるいは国際秩序維持のためにどこまで制約されるべきなのかを議論する。
（７）日本の「失われた30年」（講義関係章：Chapter 12）なぜ日本経済は長期にわたって停滞を続けることになったのか。他の先進国（特に一人あたりGDP世界トップ10の国々）との国際比較で議論する。
（８）気候変動問題１（講義関係章：Chapter 14）国際制度は国家間の協力を促すのか。気候変動対策や生物多様性保護などの国際環境問題を題材に、制度が国際協力を促進しうるか考える。
（９）米中覇権衝突（講義関係章：Chapter 15）経済的に互いを必要とするはずの米中が、なぜ対立するのか。近年の米中関係を題材に、新旧の大国が対立するメカニズムを考える。
（１０）中間総括

第3クール（担当：服部）
（１１）台湾危機（講義関係章：Chapter 13）台湾海峡危機や半導体の地政学的課題を踏まえ、エネルギー安全保障やサプライチェーン強靭化、危機管理など、日本の安全保障戦略と経済対応を多角的に検討・議論する。
（１２）国際機関（講義関係章：Chapter 6,7,8）戦後の国際経済秩序の下、様々な国際機関が設立されてきたが、近年、脱退や拠出金問題などが生じている。はたして国際機関は有効なのか。国際機関の役割について議論する。
（１３）交渉分析（講義関係章：Chapter 9）国家間の紛争に関し、交渉による解決が図られてきた。他方、国力や立場の違いが交渉の過程や結果を左右する。トランプ関税を例に、国際交渉をどう捉えるべきかを議論する。
（１４）気候変動問題２（講義関係章：Chapter 4）気候変動問題への対処が規範として世界に浸透する一方、米国のパリ協定脱退など規範を逸脱するかの行動もみられる。気候変動問題を例に、規範の有効性について議論する。
（１５）フィードバック

C班　火5・教育院棟演習室22
第1クール（担当：服部）
（１）ガイダンス
（２）台湾危機（講義関係章：Chapter 13）台湾海峡危機や半導体の地政学的課題を踏まえ、エネルギー安全保障やサプライチェーン強靭化、危機管理など、日本の安全保障戦略と経済対応を多角的に検討・議論する。
（３）国際機関（講義関係章：Chapter 6,7,8）戦後の国際経済秩序の下、様々な国際機関が設立されてきたが、近年、脱退や拠出金問題などが生じている。はたして国際機関は有効なのか。国際機関の役割について議論する。

Continue to 統合型複合科目（人社群）：国際政治経済学(5)↓↓↓

（４）交渉分析（講義関係章：Chapter 9）国家間の紛争に関し、交渉による解決が図られてきた。他方、国力や立場の違いが交渉の過程や結果を左右する。トランプ関税を例に、国際交渉をどう捉えるべきかを議論する。
（５）気候変動問題２（講義関係章：Chapter 4）気候変動問題への対処が規範として世界に浸透する一方、米国のパリ協定脱退など規範を逸脱するかの行動もみられる。気候変動問題を例に、規範の有効性について議論する。

第2クール（担当：村上）
（６）トランプ関税（講義関係章：Chapter 9）トランプ関税は相手国・米国・国際経済に、国内産業保護の利益とコスト上昇や貿易摩擦の不利益をどう及ぼすか、その功罪を多角的に議論する。
（７）国家主権／主権国家（講義関係章：Chapter 1・2）GAFAをはじめとする前世紀終盤からのグローバル化、ならびにそれに反応する形で今世紀に入ってみられるようになった「ローカル化」にも着目しつつ、主権国家／国家主権のあり方や意義、今後について議論する。
（８）ウクライナ戦争２（講義関係章：Chapter 2・3）ウクライナ戦争について、グローバルサウスに含まれる国々はどのような反応や姿勢を示してきたのか。ウクライナ戦争に対する各国の姿勢や立場から、今日の大国・強国とグローバルサウスの関係を議論する。
（９）1980年代～90年代の金融危機（講義関係章：Chapter 10,11,14）前世紀終わりの金融危機は、英国・米国で始まった、市場原理を徹底させる新自由主義（ネオリベラリズム）が世界各地に拡大・浸透する契機となった。その現在への影響について検討する。
（１０）中間総括

第3クール（担当：関山）
（１１）ウクライナ戦争１（講義関係章：Chapter 2）ロシアによるウクライナ侵攻は、国連憲章の核となる「国家の主権平等」と「武力行使の禁止」という国際法の基本原則を明確に侵害した。この事態を機に、主権が本当に絶対的なものなのか、あるいは国際秩序維持のためにどこまで制約されるべきなのかを議論する。
（１２）日本の「失われた30年」（講義関係章：Chapter 12）なぜ日本経済は長期にわたって停滞を続けることになったのか。他の先進国（特に一人あたりGDP世界トップ10の国々）との国際比較で議論する。
（１３）気候変動問題１（講義関係章：Chapter 14）国際制度は国家間の協力を促すのか。気候変動対策や生物多様性保護などの国際環境問題を題材に、制度が国際協力を促進しうるか考える。
（１４）米中覇権衝突（講義関係章：Chapter 15）経済的に互いを必要とするはずの米中が、なぜ対立するのか。近年の米中関係を題材に、新旧の大国が対立するメカニズムを考える。
（１５）フィードバック

[Course requirements]

特になし
講義パートPART III国際経済学(Chapter 9-12)では、数I,II程度の数学力が要求される。

[Evaluation methods and policy]

講義：
① 授業への参加状況　40点(2.5点×14回, 5点×1回：小テスト)
② 期末レポート　10点
演習：
① 授業への参加状況　15点
② グループワークでの報告・発言・貢献　20点
③ 各4回ごとのレポート(or ミニレポート　1200～1600字数指定）5点×3＝15点

Continue to 統合型複合科目（人社群） ：国際政治経済学(6)↓↓↓

統合型複合科目（人社群） ：国際政治経済学(6)

[Textbooks]

坂出　健『国際政治経済学』（統合型複合科目国際政治経済学・オリジナルテキスト。LMSにてPDF版を適宜事前配布。）

[References, etc.]

（References, etc.）

坂出健・大橋陽・河音琢郎編著『入門アメリカ経済Q&A100＜第2版＞』（中央経済社、2026）
坂出健・松林洋一・北野重人編著『入門国際Q&A100』（中央経済社、2023）
クルーグマン他『クルーグマン国際経済学　理論と政策（原書第10版）上（国際貿易編）』（丸善出版、2017）
クルーグマン他『クルーグマン他『クルーグマン国際経済学　理論と政策（原書第10版）下（金融編）』（丸善出版、2017）

（Related URL）

https://takeshisakade.org(講義パート担当教員坂出個人サイト)

[Study outside of class (preparation and review)]

講義：テキスト該当箇所の予習
演習：報告準備等

[Other information (office hours, etc.)]

（オフィスアワーについて）
講義：
月曜1限。email（sakade.kyoumu@gmail.com）でアポイントメントをとってください。
演習：
村上：email（ymurakam@cseas.kyoto-u.ac.jp）でアポイントメントをとってください。
関山：email（sekiyama.takashi.2e@kyoto-u.ac.jp）でアポイントメントをとってください。
服部：email（hattori-takashi@kier.kyoto-u.ac.jp）アポイントメントをとってください。

成績証明書等では、表示文字数の制約上、英文科目名「Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars」が「ISS」と略記されます。

[Essential courses]